

## 映画の中にみる千歳

千歳を舞台として設定された映画は極めて少ない。映画の舞台となるには、物語となる地域の獨創性や特徴的な風景などが必要で、これらを満たしたものが映画化される。少ないながらも千歳を舞台とした映画は何本かある。「千歳」の名は出ないがロケ地として使用されたものを含め、代表的な映画とテレビドラマをいくつか紹介する。

## 夏子の冒険（松竹大船配給）

中村登監督、昭和28（1953）年1月14日公開の映画。

原作は三島由紀夫（週刊朝日連載）による26年出版の同名小説の映画化。北海道の洞爺から支笏湖周辺でのロケ映像と蘭越地区の千歳川の一部が見られる。

詳しくは前述の「小説の中の千歳」を参照。

## コタンの口笛（東宝制作・配給） 126分

成瀬巳喜男監督、昭和34（1959）年3月29日公開の映画。出演、幸

田良子、宝田明、水野久美。

原作は石森延男（偕成社）による32年出版の同名小説で、第1回未明文  
学賞と第5回産経児童出版文化賞を受賞している。

昭和30年代の千歳の町並みを背景にした千歳の代表的映画。蘭越地域の千歳川沿いにオープンセットを造り、さらに支笏湖を背景に絵を描くシーンや市街中心部（仲の橋通）、中央バス千歳営業所、千歳高校のグラウンドや旧校舎など、撮影は主に千歳市内で行なわれ、多くの市民エキストラが協力していた。

詳しくは前述の「小説の中の千歳」を参照。

## 高度7000m 恐怖の4時間（東映制作・配給） 77分

小林恒夫監督、昭和34（1959）年9月公開の映画。主演、高倉健。

羽田発仙台経由千歳行ききの航空機内で起きたフィクションを映画化したもので目的地の空港に昭和30年代の旧千歳空港が撮影に使用された。

## 今日もわれ大空にあり（東宝配給） 103分

古澤賢吾監督、昭和39（1964）年2月29日公開の映画。出演、三橋達也、佐藤充、夏木陽介、星由里子。

航空自衛隊浜松基地と千歳基地を舞台とした、訓練生とベテラン教官の交流を描いた映画である。撮影は38年10月に行われた。

## 兵隊やくざ（大映製作、配給） 82分

増村保造監督、昭和40（1965）年3月13日公開の映画。出演、勝新太郎、田村高廣。

「兵隊やくざ」シリーズの第1作。本作のラストで、2人が列車の連結を切り離して脱走するシーンを千歳の米軍2基地専用線（現在は廃線）で満州の情景を想定し撮影している。

## 男はつらいよ 翔んでる寅次郎（松竹配給） 107分

山田洋次監督、昭和54（1979）年8月4日に公開された映画。出演、渥美清、桃井かおり（マドンナ）、布施明、倍賞千恵子。

「男はつらいよ」シリーズの第23作。物語冒頭とラストシーンを支笏湖にて撮影している。

**BEST GUY**（東映製作、配給） 115分

村上透監督、平成2（1990）年12月15日公開の映画。主演、織田裕二。航空自衛隊千歳基地を舞台に、技量・人格ともに最も優秀であると認められたパイロットにのみ与えられる称号「BEST GUY」を巡るF-15パイロット（イーグルドライバー）の物語である。当時では珍しく防衛庁（現・防衛省）と航空自衛隊が全面協力している。

本作は新千歳空港旅客ターミナルビルの完成前に製作されたため、映りこむ建物が建設途中である。

**キャンプで逢いましょう**（大映ほか制作、東宝配給） 104分

和泉聖治監督、平成7（1995）年10月7日公開の映画。主演、後藤久美子。

原作は田中律子（山と溪谷社）による5年出版の同名エッセイ本。美笛キャンプ場がロケ地に起用されている。

またたき  
**瞬**（S・P・D配給） 110分

磯村一路監督、平成22（2010）年6月19日公開の映画。主演、北川景子。

撮影のロケ地に支笏湖温泉レイクサイドヴィラ翠明閣と道道16号支笏湖公園線（支笏湖スカイロード）が使われた。

**うちのホンカン**（北海道放送（HBC）製作）全6作 各55分

出演、大滝秀治、八千草薫、仁科明子。

倉本聰脚本、昭和50年から56年にかけてTBS系「東芝日曜劇場」で放送されたテレビドラマシリーズ。第2作から第4作までが支笏湖畔にある駐在所勤務の真面目で不器用な警察官、「ホンカン」の周りで繰り広げられる出来事を描いた物語である。この中の映像には支笏湖のほか市街地の商店街（喫茶店）、東雲町にあった警察官官舎などが使われた。

シリーズの各パートの舞台は次のとおりであった。

- 第1作「うちのホンカン」 渡島管内砂原町（現・森町）
- 第2作「ホンカンがんばる」 うちのホンカン」 支笏湖・千歳市
- 第3作「嘆きのホンカン」 うちのホンカン」
- 第4作「冬のホンカン」 うちのホンカン」
- 第5作「ホンカン雪の陣」 うちのホンカン」 石狩管内厚田村
- 第6作「ホンカン仰天す」 うちのホンカン」